

## 2次系配管肉厚管理に関する事実関係（5つのフェーズで整理）

フェーズ	<p>PWR管理指針が策定されるまで および PWR管理指針が適用されて以降、三菱重工業が2次系配管点検工事を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和59年 当社で2次系配管肉厚管理を強化。</li> <li>・昭和62年～平成元年 当社から三菱重工業に、PWR管理指針案の策定を委託。（原案の段階では、オリフィスは主要点検部位ではなかった）</li> <li>・平成2年 5月、当社がPWR管理指針を策定。（最終的に、オリフィスは主要点検部位となった）</li> <li>・平成2年 6月以降、三菱重工業がPWR管理指針適用の際、スケルトン図をチェックしたが、42ヶ所で登録漏れ。（当該部位含む）</li> <li>・平成3～7年 三菱重工業が登録漏れ10ヶ所についてスケルトン図を修正。（当社への連絡はなかった）</li> </ul>
フェーズ	三菱重工業から日本アームへの2次系配管点検業務の移管	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成8年～ 当社が三菱重工業に最新のスケルトン図の提供を依頼。受領後、日本アームに提供。（32ヶ所の登録漏れを含むスケルトン図が移管された）</li> </ul>
フェーズ	日本アームがスケルトン図のCAD化等を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成9年 当社が日本アームにスケルトン図のCAD化を委託。（当該部位の登録漏れは継続した）</li> <li>・平成9年～ 日本アームが登録漏れ17ヶ所についてスケルトン図を修正。（一部を除き、当社への連絡はなかった）</li> </ul>
フェーズ	日本アームが当該部位の登録漏れを発見してから事故に至るまで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年 4月、日本アームが当該部位が登録漏れであることを発見、スケルトン図を修正。（当社への連絡はなかった）</li> <li>11月、日本アームが美浜3号機の次回定期検査に向け、当該部位を含む点検対象箇所リストを当社に提案。</li> <li>・平成16年 当社が美浜3号機の次回定期検査で「その他部位（主要点検部位以外の部位）」も含め追加点検すべき部位を抽出するため、点検リストのチェック作業を進める中で、未点検部位のひとつとして当該部位を抽出したが、すでに次回定期検査において点検する計画であったことを確認。</li> </ul>
フェーズ	美浜3号機以外でスケルトン図から当該箇所と同一の部位が漏れていたこと等の発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成9年 日本アームが、高浜4号機の当該同一部位の登録漏れを発見し、当社に連絡。当社は至近の定期検査で点検を実施。</li> <li>・平成10年～ 三菱重工業の子会社（NUSEC）が日本アームに対し泊1号機、敦賀2号機の当該同一部位の減肉情報を提供。しかし登録漏れは連絡せず。</li> <li>・平成13年頃 日本アームが、美浜1号機の当該同一部位の登録漏れを発見。（当社への連絡はなかった）</li> </ul>